



日本スピッツ犬の初渡欧のいきさつ

日本スピッツの人气が海外においても定着し、熱心な愛好者が増えつつある現状はよく知られておりますが、どのような状況なのか関心事の一つでした。

最近海外の日本スピッツ情報が、リアルタイムに寄せられて参ります。一愛好者として情報提供者にはもちろん、橋渡しをされた方々にも大変感謝いたしております。私達がこよなく愛している犬種ですから、外国で人気先行するよりも、それぞれが熱心な愛好家を得て、「日本スピッツは本当に幸せ者なんだ」と、目頭が熱くなる今日この頃です。

では、日本スピッツはどの様にして外国に渡ったのでしょうか、やがて歳月の際間に埋もれてしまいますので、偶然片隅に居合わせた者の一人として30年前を振り返りながら、遠のいた記憶をたどってみました。

1973年(昭和48年)4月28日-29日 JKCが初めての国際展を《世界チャンピオン大観覧会》と銘打って開催しました。審査犬は4,111頭、日本スピッツはJKC年間登録数561頭と低調な時でありながらも36頭を数え、内外に威信を問う一大イベントでしたから盛大な観覧会となりました。場所は練馬区にあった、グラントハイツ(元在日米軍居住施設)の広大な芝生の会場だったと記憶します。

その会場に、スウェーデンのANDOLEASSON(アンドレアソン)氏がお見えになり、日本スピッツを本国に連れて帰りたいとお話があったようです。私は直接アンドレアソン氏にお会いしておりません。当日の日本スピッツと他犬種10頭の審査を担当しておりましたので、会場にい

あわせた鈴木さんからお聞きした事を渡辺三朗氏に取り次いだような訳で、仔犬探しから以降の諸般を渡辺氏が快く引き受けてくださいました。

後日になって、検疫関連や発送まで複雑な手続きの苦労話、また速水一郎氏には大変お世話になったこと等を渡辺氏から聞き及んだのは、昨日の出来事の様な気がします。

結果としては、会場で仙台の朝比奈ふく子氏が狩谷和子氏繁殖のGOTTER-WAHL SHANSHAN(牡)をお世話し、渡辺氏が名古屋の鈴木平治氏によるDANIEL OF ROSEGARDEN(牝)と、ご自身の繁殖によるANDOLEASSON OF GOLDENMEADOW(牡)をスウェーデンに送りました。この時の仔犬3頭が欧州初の日本スピッツでは無かったでしょうか、まもなくスウェーデンのアンドレアソン氏から便りなどが届きました。その年の夏スウェーデンで開催されたドッグショーに3頭を連れていった時のことと、その後の可愛い彼と彼女達のことでした。

「ドッグショーにおいては未公認犬のため審査対象外だったが、初めて見る純白の日本スピッツに多くの観衆は、『なんて可愛い子なんだろう』と口々に感嘆し、『最も完成されたスピッツ』との評価さえ戴きました。そして、後日はTVに出演、新聞にも掲載され、大きな反響を呼びました」と、概要は以上ですが、それらの事細かい記述と掲載紙の切り抜き、北方犬という写真本なども送っていただきました。

その後も渡辺氏はアンドレアソン氏の要請に応じ数頭をお世話し、沢辺・本田・山田氏等も共に多くの日本スピッツをスウェ

ーデンに輸出をされました。そして数年後には Japanese Spitz Club と Japanese Spitz Union の 2 団体が結成されたと聞いております。まもなく日本スピッツも公認犬となり、Utility group として席を得た様でした。

アンドレアソン氏が輸入されてより 8 年後、英国にも Japanese Spitz Club が設立され、クラブの会報(95P)が送られて参りました。FIRST EDITION 1990 の中 HISTORY The Club の項の書き始めにこんな記述がありました。The Kennel Club gave its final approval for Registration of the Japanese spitz Club on 22nd January 1981. とあり、ショーの成績の項目には 100 頭を超える出陳数が数回あるのには驚きを隠せませんでした。

最近になって新しい海外の日本スピッツ情報が伝わって参ります。中でもイタリアの Marco G. Piasentin 氏は、広く欧州諸国の情報までも寄せてくださいます。

氏は日本スピッツのオーナーでもあり、この犬種の研究者としてもつとに有名で、系列として決して多くないヨーロッパにおいて、今後の繁殖を憂慮されている様子です。

私達の繁殖の道も決して広くはありませんが、よく見渡せば余裕を見いだせる状況下にあります。しかし、海外ではどこを探しても限られた系統しか見当たらず、道は狭くなるばかりで、遺伝性の関節疾患が心配され、野生動物では種の滅亡(シュノメツボウ) に繋がって参ります。

「伶俐で、清潔感にあふれ、表情や仕種で語りかけてくる、この素晴らしい日本スピッツを、海外のより多くの方々に知っていただきたい」と、全ての日本スピッツファンは思われておられると存じます。

皆様方の英知をお借りし、こよなく愛して下さっておられる海外のファンの方々に、繁殖環境の種(シュ)の部分で、ご恩返しができることを願っております。

2003.3.30 記述・柴 稗 (NSC 会長)



左から速水道子さん、モニカ会長(スウェーデン・スピツクラブ)ローズマリー副会長、アンドレアソン夫妻、速水一郎氏、マルコ氏